

## 1. 知事の政治姿勢について

### (2) インバウンドの回復拡大



インバウンドの回復拡大について伺います。

観光関連産業には、多くの方が従事し、地方経済を支える重要な役割を果たしています。現在は、新型コロナの水際対策が大幅に緩和され、インバウンドの入国が解禁されました。しかし、観光業界から歓迎の声が聞かれる一方、コロナ禍での観光需要の激減で深刻な人手不足に陥っています。

観光基盤の整備が切実に求められている今、大事なことは、観光地の再生と魅力向上へ、今後も観光産業への計画的・継続的な支援が必要です。

そこで伺います。インバウンド需要増加に対応するため、さらに宿泊施設の改修やDX（デジタルトランスフォーメーション）化などの取り組みを支援すべきと思いますが、知事の見解をお聞かせください。

2点目は、インバウンド旅行者が安全・安心に旅行出来る環境を整備するため、感染症対策に加え、観光地を中心として災害時・急病時の多言語対応の強化等に関する取り組み支援をしてはいかがでしょうか。お答えください。

3点目は、インバウンドの多様なニーズに対応するため、文化観光体験、アート市場の活性化、スポーツツーリズム、農泊・酒造ツーリズム等今後も民間活力を導入し、楽しめて体験できる観光まちづくりを市町村と連携し、推進してはいかがでしょうか。お答えください。

4点目は、国際クルーズ船再開について伺います。

国際クルーズ船の運航が、新型コロナ感染症拡大の影響により、2020年3月以降停止されていましたが、国は、先月国際クルーズの受け入れ再開を発表しました。

今回の国の決定は、本県へのインバウンド増加につながるものと期待していますが、国際クルーズ再開に当たっては、感染症対策の徹底など、県民の皆さんが、安心してクルーズ船を受け入れられるよう準備が必要と思いますが、知事の考えをお聞かせください。

次に、クルーズ客の県内周遊促進について伺います。

コロナ前のクルーズの大半は、中国クルーズでしたが、現状、中国はゼロコ

コロナ政策を維持していることから、中国クルーズ観光客の増加は見通しが立ちません。しかし、新聞報道によれば、来年3月以降に外国籍のクルーズが国内に寄港する計画は、166本、そのうち7割が九州ということです。中国クルーズ観光客は、太宰府や舞鶴公園、福岡タワーを巡り、免税店で買い物をするというのが定番でしたが、新たなクルーズの乗船客には寄港地の自治体だけではなく、県内各地域への周遊につながる取り組みが必要ではないでしょうか。知事の考えをお聞かせください。

この項の最後に北九州空港の利活用について伺います。

北九州空港の18年度利用者数は、約179万人が利用され、インバウンドの増加により、過去最高を記録しました。24時間空港の利点を生かした北九州空港は、福岡空港の代替機能を果たすことで更に成長が可能となります。そこで伺います。常に過密状態の福岡空港から北九州空港へ国際線利用を一定数移す考えはないのか知事の見解をお聞きします。

#### 【服部知事の答弁】

##### ① 宿泊施設の改修やDX化の支援について

県では、外国人旅行者がストレスなく旅行を楽しめる環境を整備するため、宿泊施設におけるWi-Fi環境の整備やトイレの洋式化、露天風呂付の客室整備といった施設改修の取り組みを支援してきたところです。

今年度からは、県中小企業生産性向上支援センターに新たに「宿泊業支援ユニット」と「デジタル支援ユニット」を設置し、宿泊施設の付加価値向上やデジタル化等の取り組みを支援しています。まず、企業診断スタッフを宿泊施設に派遣し診断を行った上で、専門アドバイザーが現場に出向き、生産性向上のために必要な計画策定を支援するとともに、計画実現に向けた伴走支援や設備導入等に対する助成を行っているところです。

具体的には、幼児が安心して遊べるキッズパークの設置や、海外からも予約が可能な宿泊予約システム導入などの支援を行っています。

今後も、こうした取り組みを、県内の多くの宿泊事業者の方々にご活用いただけるよう、メールでの案内に加え、業界団体の総会を通じて周知徹底するとともに、インバウンド受け入れに取り組む宿泊事業者のさらなる伴走支援に取り組み、インバウンドの需要の増加にしっかり対応してまいります。

## ② 災害時・急病時の多言語対応の強化について

県では、24 時間 365 日、多言語で対応する電話通訳サービス「ふくおかよかところコールセンター」を運営し、災害時においても宿泊施設や観光案内所等において、外国人観光客とのコミュニケーションを図ることができる体制を整えています。

また、急病時においても、「医療に関する外国語対応コールセンター」において、「電話通訳」及び「医療に関する電話案内」を 24 時間 365 日、多言語で対応しています。

さらに、災害発生時における、外国人観光客の安全確保のため、県の海外向け観光ホームページ「VISIT FUKUOKA」や SNS において、速やかに災害情報を発信することとしています。

併せて、宿泊施設等の従業員が突然の災害発生時や急病時にも、慌てることなく外国人観光客に対応できるよう、「外国人旅行者のための災害対応マニュアル」を策定し、県内の宿泊施設や観光案内所等に周知してきたところです。

水際対策が緩和され、外国人観光客の増加が見込まれる中、外国人観光客の方が安心して本県を旅行していただけるよう、こうした対策の周知を徹底してまいります。

## ③ 外国人観光客が楽しめて体験できる観光まちづくりについて

県では、外国人観光客のニーズに対応するために、市町村や民間事業者と連携し「由緒ある屋敷での能鑑賞」や「200 年以上の歴史を持つ久留米餅(かすり)の藍染体験」など、福岡ならではの体験を組み込んだ高付加価値・高単価な旅行商品のモデルコースを開発し、海外の旅行会社へ紹介し、旅行商品の造成を促してまいります。

また、サイクルツーリズムを新たな体験型観光と位置づけ、市町村や民間事業者と連携し、広域サイクリングルートの設定や、サイクリストの受け入れ環境整備などに取り組んできたところです。

今年度からは、玄界灘や遠賀川の景観を楽しめる「直方・宗像・志賀島ルート」などを組み込んだモデルコースを造成し、サイクリングが盛んな台湾や欧州の旅行会社を招請することにより、外国人観光客のニーズを踏まえた磨き上

げを行い、商品造成につなげてまいります。

さらに、JRグループ6社及び観光関連事業者と連携し、再来年春に開催する国内最大規模の観光キャンペーン「福岡・大分デスティネーションキャンペーン」に向けて、国指定名勝庭園の夜間開館や夜景観賞特別クルーズなど、特別感のある観光素材の開発を、市町村や観光協会、民間事業者と連携して進めており、これらの観光素材についても外国人観光客に対応できるよう整備してまいります。

これらの取り組みにより、世界から選ばれる観光地づくりを進めてまいります。

#### ④ 国際クルーズ船再開について

国際クルーズ船の受け入れ再開にあたっては、まずはクルーズ船や旅客ターミナルの感染防止対策の徹底、入国時の検疫体制の強化、コロナ有症者発生時の対応など、日本国際クルーズ協議会などの関係団体が策定したガイドラインを遵守した受け入れ体制を構築する必要があります。

その上で、国際クルーズ運航会社が、寄港を予定している港の関係者と受け入れに関する協議を行い、合意を得た後に再開となります。

県としては、県民の皆様が安心して国際クルーズ船を受け入れられるよう、博多港、北九州港の港湾管理者である両政令市を通じ、受け入れ体制の構築状況をしっかりと把握するとともに、両港の検疫体制の強化については、国に引き続き要望してまいります。

#### ⑤ クルーズ観光客の県内周遊の促進について

本県への国際クルーズの寄港が再開する際には、クルーズ観光客に限られた時間の中で効率良く県内観光を楽しんでいただくため、寄港地オプションツアーを造成する旅行会社や乗客に対して、本県の魅力ある観光情報を届けることが重要です。

そのため、旅行会社に対して、

- ①門司港レトロの歴史ある町並み散策
- ②宗像市のビーチ乗馬体験など

本県の歴史文化や自然を感じられる観光素材を組み込んだモデルコースを

提案し、県内を周遊する寄港地オプションツアーの造成を働きかけてまいります。

併せて、寄港の際に自由行動をされるクルーズ船の乗客に対して、船内で観光パンフレットを提供するなど、寄港地周辺の外国人観光客向け体験プログラムなどの情報を届けてまいります。

これらの取り組みにより、クルーズ観光客の県内周遊を促進してまいります。

## ⑥ 北九州空港の利活用について

「福岡県の空港の将来構想」では、福岡空港との役割分担と相互補完を進める方針のもと、北九州空港については、24時間空港の特性を活かし、福岡空港では対応できない早朝・深夜便の誘致を進めるとともに、貨物専用便の更なる誘致を進め、貨物拠点空港としての発展を目指すこととしています。

近年、国は航空自由化を進めており、どの空港を利用するかは、航空会社の意向が尊重されることとなります。

このため、県では、北九州空港の旅客便の誘致を図るため、北九州市と連携して、

- ① 定期便就航に対する助成
- ② 航空会社への直接訪問や商談会での働きかけ
- ③ 福岡都市圏と結ぶ福北リムジンバスの運行

に取り組んでいるところです。

さらに、県と福岡国際空港株式会社が連携して、福岡空港の発着枠を超えて就航を希望する航空会社を北九州空港へ誘導する取り組みを進めています。

これらの取り組みにより、北九州空港のより一層の利活用を促進してまいります。